

さて本題は政治のお話です。
いよいよ 2007 年 12 月 23 日にタイの政治の行方を占う総選挙が行われます。

こちらの政党の詳細はタイ株メルマガの中盤に。

さてそれでは第25号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

(こちらのメールマガジンは転送可となっています。
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にどんどんお伝え下さい。)

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

タイに初めて旅行に来た際に
どんなところを訪問しておいた方が良いですかと
言うご質問を受けましたので、いくつか候補を挙げておこうと思います。

1 バンコク病院(BGH)、バムルンラード病院(BH)。
こちらはタイ随一の高級私立病院です。医療レベルも高いのですが、
その豪華さ、サービスも高いことに定評があります。
見学ツアーなどはないですが、(バムルンラード病院では在タイ日本人向けに
医療セミナーなどを開催しています。)訪問してみるだけでも価値があります。

2 バンコク・モーターショー・他
タイで開催される自動車ショー&展示会・即売会です。
年に2回開催されています。(主催はそれぞれ違います。)
こちらにも報道陣の数、コンパニオンの数もさることながら
有数の自動車生産国としての規模・熱気に圧倒されます。

3 カシコーン銀行(KBANK)、サイアム商業銀行(SCB)。
それぞれ巨大な建築ビルで特徴的な建物の中に入っています。
ここも一見の価値ありです。特にカシコーンは
客家財閥が建てた風水による建築物はとても面白いかたちをしています。

4 タイのコンビニ、大規模小売店
こちらにもまた日本とは異なるシステム、売り場面積などで
「ほほー」となると思います。テスコロータス(未上場)、ビッグシー(BIGC)
コンビニのCPALLなどなど。
(タイの肉まんがおいしかったと言われたこともありました。)

5 MBKの携帯電話売り場(4F)
タイの携帯電話を購入する際に、様々な種類を扱っているタイの携帯のメッカ

がこちらになります。
修理、中古品、コピー商品もちらほら。
こちらでもどのような携帯電話があるのかを見るには面白い場所です。
(ただし、混雑しているので、貴重品管理にはご注意ください。)

まだまだ御紹介できる場所は 20 箇所くらいあるのですが、
スペースがなくなってしまうので、それはまた改めて。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■
タイ株の上場企業詳細のコーナーを作りました。

●● チョーガンチャーン(CK) 025 です。 ○○

今回はゼネコン大手の企業になります。

チョーガンチャーン(CK)はタイで売上規模第2位の
大手ゼネコン企業になります。
東急建設、熊谷組などと関係が深く、
これまでもタイ国内の数多くの大規模なインフラ事業を受注してきました。
特に高速道路、大規模な橋、高層ビル、工場建設、エネルギー関連施設
などを請け負っています。
ラオスでもナムグン第2水力発電プロジェクトの建設事業を
進めています。

現在メガプロジェクトは延期となっていますが、
08年度以降に多くの受注が期待されている企業の一つです。
子会社には
バンコクエクスプレスウェイ(BECL)、
バンコクメトロ(BMCL)、
タイタップウォーター(TTW)、などがあります。

□□ No3 タイ国内ニュース編です ■■

タイでは12月23日に総選挙が予定されています。
今後のタイ政治・経済の行方を占う重要な選挙となります。
現在どのような政党が立候補しているかと言うと、
2007年11月中旬現時点での主要政党は7党あります。

1・パランプラチャーチョン党
(日本語紙では国民の力党などと訳されています。旧与党系)
旧タイ愛国党<タクシン首相が率いていた党>から分離し、
旧タクシン勢力が集結している党になります。

今後タイ北部とタイ東北部票でもっとも勝利する可能性の高い党です。
党首は前バンコク都知事だったサマック氏です。
しかもタクシン前首相支持を公言しているために、
クーデターを起こした軍部としては何としても
この政党の勝利は避けたいと考えているようです。

2・プラチャーティパット党

(民主党と訳されています。旧野党第一党)

こちらはまだ若いアピシット氏を党首とする、バンコクでは非常に人気の高い
政党です。目下選挙ではパランプラチャーチョン党と火花を散らす関係です。
事前の獲得議席予想では双方ともに過半数を取れないと見られていて、
選挙前、選挙後の連立政権の組み合わせの行方にも注目されています。

3・チャートタイ党

(タイ国民党で訳されています。旧野党系)

党首はバンハーン氏です。タイの中部に強い地盤を持ちます。
バンハーン氏は元首相でもあるために、少数ながら連立の組み合わせ次第では
首相に帰り咲く可能性もあります。
10月に同じ野党系であったマハーチョン党(大衆党)
を吸収しています。

4・プア・ペンディン党

(国家貢献党などと訳されています。旧与党系)

こちらは勢力数で言うと4位くらい。旧タイ愛国党の著名なメンバーが多数います。
党首はスウィット元副首相が務めています。もともと東北部の票田
ノンカイ・ウドンタニ・コンケンなどの地区に強い党です。

5・マチマー・ティパタイ党

(中道主義党と訳されています。旧与党系)

こちらもタイ愛国党から離脱した党になります。
党首はプラチャイ氏。元々TPIグループ(現在一部がIRPCへ)を発展させた経営者です。
こちらに参加を予定していた南部三県(ナラティワート県、ヤラー県、パッタニー県)を
地盤としたイスラム教系ワダ会派はパランプラチャーチョン党に
転向しています。

6・ルアムジャイ・タイチャートパタナー党

(タイ合同国家開発党などと訳されます。旧与党系)

こちら元タイ愛国党からソムキット前副首相兼商務相派のグループと
スワット前副首相派グループが9月に合併して新政党を結成しました。
中堅の政党になります。

7・プラチャーラート党

(王民党などと訳されます。旧野党系)

党首はサノ氏。いち早くタイ愛国党から離脱したサノ氏が設立した党になります。

しかし同じく一緒に加わった TPI ポリン(TPIPL)の経営者プラチャイ氏が離脱し、弱小勢力になってしまいました。

ただし今後も合従連衡、離反、入党の動きは活発になるようで、不透明な状況はしばらく続きそうです。
選挙の行方では1・国民の力党と2・民主党の激突の結果に注目が集まります。

これらの政党がどのように選挙活動に挑むのか、詳細は次回になります。

□□ No4 追伸です ■■

12月16日(日)にパンローリング社・内藤証券主催の講演会に講師として参加することになりました。

たくさんの方にタイの経済と株式市場を伝えるチャンスですので、少し早口になるかもしれませんが、面白く伝えられればと思います。

詳細のページはこちらになります。

「無料」だそうです。無料ですので申し込みはお早めにされた方が。

タイ、ベトナム、ドバイ、中国、ロシアと世界各国のマーケットを解説するそうですので、それぞれの特徴を一度に聞いてみる良いチャンスだと思います。

最後までお読みいただきましてありがとうございました！
阿部

●注意事項です

- 1：こちらのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。
- 2：タイの情報については細心の注意を払っておりますが、その内容に相違が発生する場合もあり、保証するものではありません。
- 3：タイの株式売買決定は自己責任でお願い致します。

□□□□□□□■□□□□□□□□□□
阿部 俊之

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

